**平成２９年度**

**社会福祉法人みなみ　中央ケアセンター**

**通所介護　事業計画**

通所介護

管理者代行　齋藤　亮太

１　基本方針

　利用者の人格及び人権を尊重し、一人一人に合わせた自立支援を行う。

　利用者及び家族のニーズに応じ、地域に密着し信頼されるサービス事業展開を目指す。

２　運営目標

○稼働率８５％にすることで年間売上８０００万を目指す。

　・定期的な営業（空き情報など）を行い、居宅事業所との顔の見える繋がりを保ち、新規顧客の

受け入れや、必要に応じた利用曜日の追加に対応していく。

　・利用者の状態変化に敏感となり、体調不良の早期発見・受診の促しを行う事で、体調不良による休みの人数を減らす。

○利用者登録数を７２件から８５件に増やす。

　・中央ケアセンターの売りの一つでもあるショートステイの併用者もおり、１日にショート利用

者が重なる事も視野に入れ、登録者数を増やし１日あたり２７人以上の利用人数を保てるよう

にする。

○居宅支援事業数の増加ではなく、一事業所からの利用件数を増やす。

　・現在、取引のある事業所は２７ヶ所あるが、多くは一事業所から１件の取引となっている。 居宅支援事業所との繋がりを深め、取引件数の少ない事業所から件数増加を図る。

３　事業目標

○『生活の幅を広げる事で、これまでの生活を取り戻す』

・利用者目線での介護を実施する事で個々に応じた自立支援を目指し、在宅生活が継続できるよ

うサービスの提供及び質の向上に努める。

○『社会交流がもてる環境作り』

・個別機能訓練Ⅰ・Ⅱの一環として、外出機会を作り、地域行事や交流の場に参加する事で地域

との交流を図り、利用者の活動の場を広げる。

また、施設外での活動による心身のリフレッシュを図る。

４　人材育成

○社内外での研修に参加し、新しい知識・技術の習得を目指す。

　・内部研修や地域で行われている研修へ積極的に参加し、職員一人ひとりの見聞を広げ、自己の

スキルアップを図る。

○職員間でのミニ症例発表会を行う。

　・１年に１回以上の症例発表会を行う事で、職員それぞれが自ら『調べ・考え・伝える』

　　考える癖をつける事で、日常でのリスクマネジメントに活かせるようになる。

○統一した介助方法が出来る。

　・各介助マニュアルを参照する事で、利用者様に対して統一した介助が行えるようになる。

また、新入職員が入職し指導する場合、どの職員が指導役となっても指導内容にバラつきなく

指導が行えるようになる。

○職員全員で行うチームワーク作り

　 ・個々のスキルだけに頼らず、職員全員が一つの目標に向かい進んでいくために、定期的な面談

　　 を行っていき、その時々での悩みや不安を取り除く。また、会議以外で職員が互いに意見を

　　 言い合える場として意見交換会や食事会を開催し、日ごろのストレス発散や情報交換ができる

　　 職場関係の構築を図る。

５　人材確保

○将来の介護の担い手を増やす。

　・福祉専門学校など、介護実習先に就職希望をする学生が多いため、介護実習等の受け入れ先と

なり、学校卒業後の就職先となるよう将来を視野に入れる。